nikko am
Nikko Asset Management

グローバル水素株式ファンド

追加型投信／内外／株式

販売用資料
2025年5月

（2025年5月20日使用開始）

（愛称）H2

※当ファンドは「ESG投信」ではありません。

2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社は
「アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社」に社名変更します。
社名変更後URL：www.amova-am.com

amova
アモーヴァ・アセットマネジメント

アセットマネジメント（am）を
ムーヴ（move）する

投資信託説明書（交付目論見書）のご請求・お申込みは

三井住友信託銀行

三井住友信託銀行株式会社　登録金融機関　関東財務局長（登金）第649号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人金融先物取引業協会

設定・運用は

日興アセットマネジメント

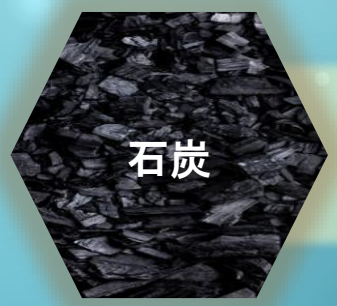
日興アセットマネジメント株式会社　金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第368号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

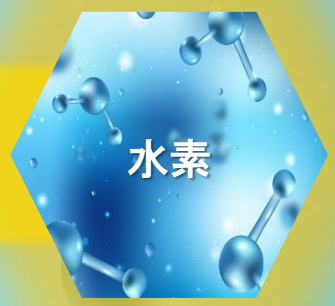
“夢のエネルギー源、水素”

脱炭素に向けた取り組みが世界的に進むなか、

燃焼させても二酸化炭素（CO_2）を排出しない水素が、

「夢のエネルギー源」として注目を集めている。





環境分野に大きな変革を起こし、

社会や産業に巨大なインパクトを及ぼすと期待される水素。

当ファンドは、**水素が引き起こすメガトレンド**への投資機会に着目する。

※写真はイメージです。

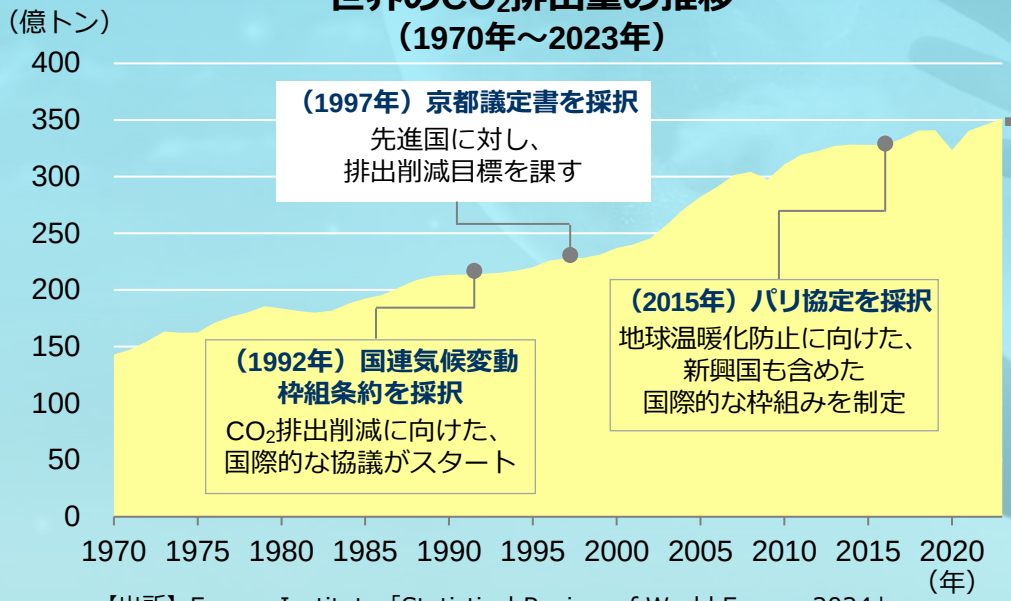
“水素は、脱炭素社会の大本命に”

環境改善への取り組みは20世紀から行なわれていたものの、その効果は限定的なものだった。
しかし近年、米国や中国をはじめ、**世界で「カーボン・ニュートラル*1」をめざす動きが本格化**。
既に、2050年までの達成を宣言した国の数は130を超える*2。

＊1：CO_2をはじめとする温室効果ガスについて、排出量と吸収・除去量をバランスさせ、全体として排出をニュートラル（中立）にすること。
＊2：2022年時点（出所：国連「Global Climate Action portal」）。

加速する、環境改善に向けた世界の取り組み

世界のCO_2排出量の推移（1970年～2023年）



【出所】Energy Institute「Statistical Review of World Energy 2024」

状況の改善に向けて

世界的に取り組みが加速

EU（欧州連合）：2019年12月
・2050年までのカーボン・ニュートラル達成で合意

中国：2020年9月
・2060年までのカーボン・ニュートラル達成を目標に

日本：2020年10月
・2050年までのカーボン・ニュートラル達成を宣言

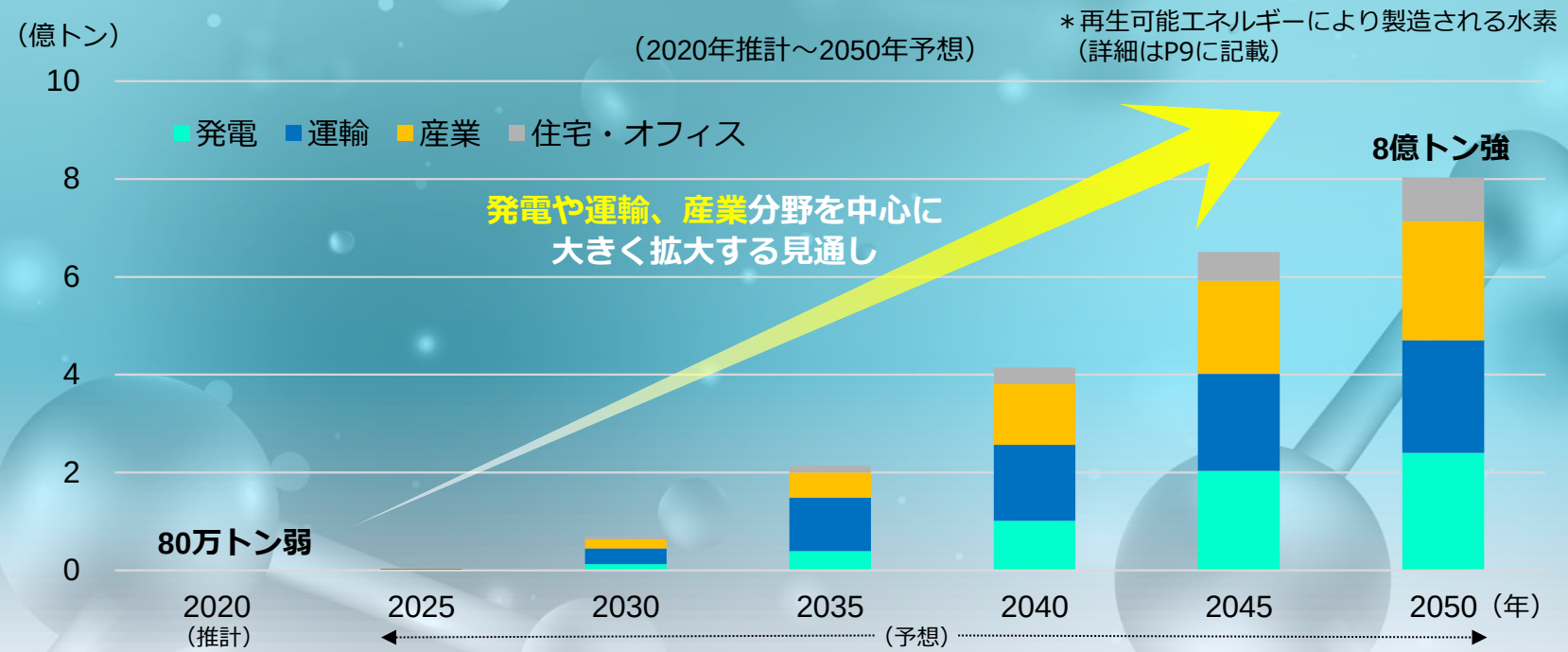
米国：2021年2月
・2020年に脱退したパリ協定に正式復帰

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

中長期で大きな拡大が見込まれる水素需要

「カーボン・ニュートラル」に向けた世界的な取り組みとともに、
水素の普及に向けた制度構築や、水素ビジネスの
主導権を握るための研究・開発が進められており、
今後、**発電や運輸、産業分野を中心に、水素需要の大きな伸び**が見込まれる。

グリーン水素*の分野別需要予想



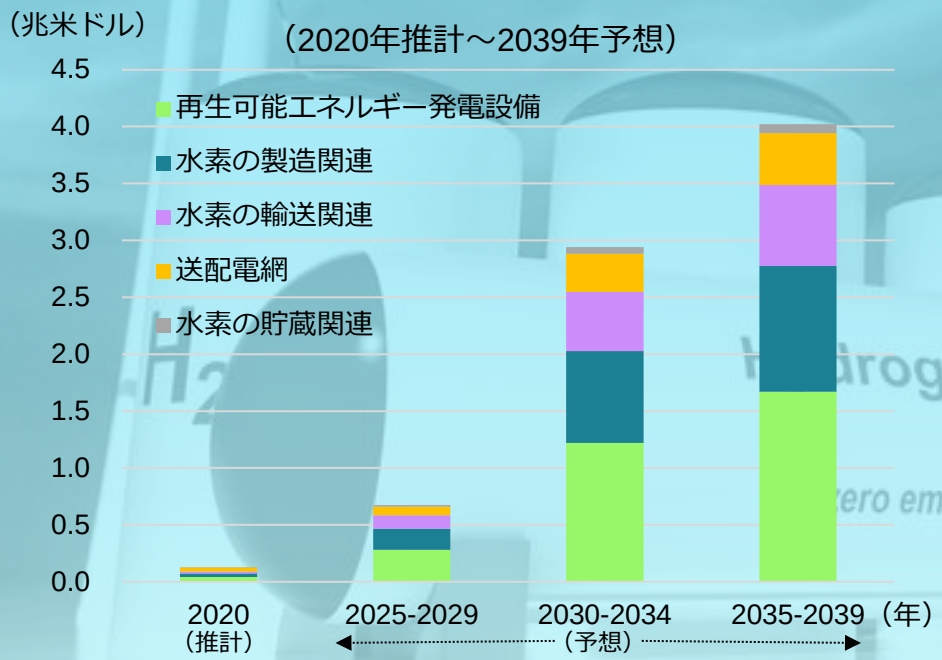
※日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドの見通しをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

水素普及への鍵 ～関連インフラの整備・供給コスト削減～

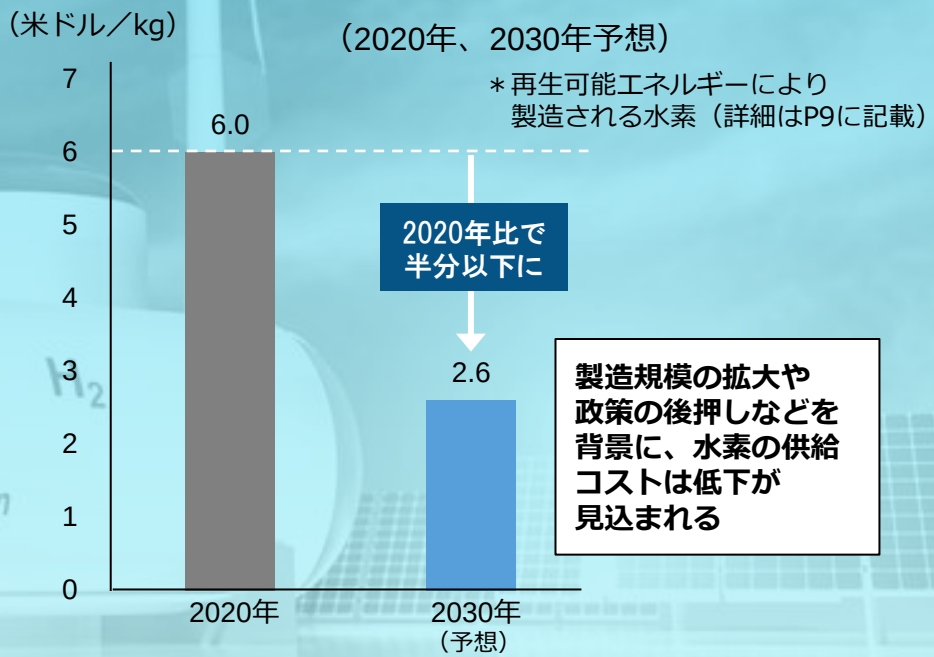
水素の普及には、製造や輸送に必要な関連インフラの整備と供給コストの削減が不可欠。
今後、関連インフラへの投資額は急激に拡大すると見込まれている。
また、水素製造の規模拡大や研究・開発の進展、補助金制度による政策の後押しなど、
官民一体となった取り組みを背景に、水素の供給コストは大幅に抑えられる見通し。

水素関連インフラ投資額（年平均）の予想



※日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドの見通しを
もとに日興アセットマネジメントが作成

水素供給コストの見通し（欧州、グリーン水素＊）



【出所】Hydrogen Council「Path to hydrogen competitiveness
A cost perspective」

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

夢のエネルギー源として注目される水素の魅力

【本資料の「お申込みに際しての留意事項」を必ずご覧ください。】

1. 発電時にCO_2が発生しない

- 現在、発電の主力である火力発電では、電力を生み出す際にCO_2が発生しています。
- 水素は酸素との化学反応によって、**CO_2の排出なしに電気（エネルギー）を生み出します。**発電の副産物として発生するのは水のみであることから、クリーンなエネルギー源としての活用が期待されます。

水素を用いた発電（FC：燃料電池）の仕組み

エネルギー以外には水しか発生しない、**クリーンな次世代発電システム**として期待が高まっています。

2. 枯渇リスクが低い

- これまで主要なエネルギー源として活用されてきた石油・天然ガスなどの化石燃料は、将来の枯渇リスクが懸念されています。
- 一方、水素は**水を原料に製造できることから、枯渇リスクが低い資源**と考えられています。

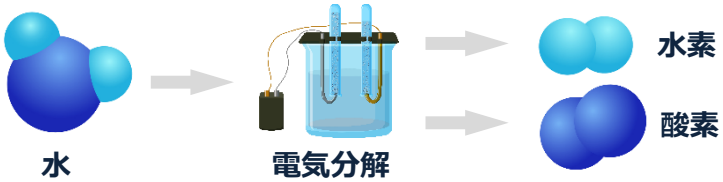
水から製造可能で、枯渇リスクが低い

<主な化石燃料の可採年数予想（2020年末時点）>

石炭：139年　**石油：53.5年**　**天然ガス：48.8年**

【出所】Energy Institute「Statistical Review of World Energy 2024」

<水は電気分解すると水素と酸素に>



水素は**地球上に最も多く存在する元素**で、その多くは水などの化合物に含まれています。

※上記は予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。上図はイメージです。

夢のエネルギー源として注目される水素の魅力

【本資料の「お申込みに際しての留意事項」を必ずご覧ください。】

3. ハイパワーで、軽い

- 水素のエネルギー（質量当たり）は、**ガソリンの約2.7倍とハイパワー**で、ロケットなどの燃料に使われています。
- ガスの中でも最も軽く、少ない重量で多くのエネルギーを生むことから、軽量化・効率化などが求められる分野での活用が期待されています。

4. 電力の貯蔵手段として活用可能

- 太陽光や風力などの再生可能エネルギーによる発電は、天候などで発電量が左右され、過不足が起こります。
- しかし、水素を使えば、**余った電力で水を電気分解することにより、水素を製造し、水素として貯蔵することが可能**になります。また、輸送インフラを通じて各地に運搬することもできます。

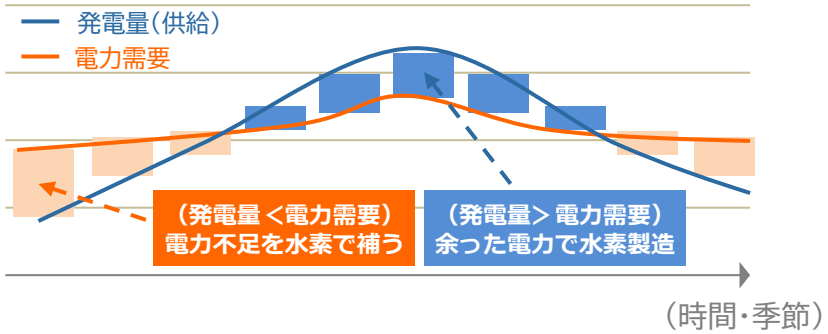
燃料や動力として活用される水素

【宇宙ロケット】
ロケットは、発射に際し強力な推進力を必要とします。水素はそのパワーを活かし、ロケットの燃料としても使われています。

【燃料電池車（FCV）】
水素と酸素で発電する燃料電池を動力源とする自動車。水素をタンクに充填することでエネルギーを補給します。FCV普及には、水素ステーションの増設が不可欠と言われています。

【水素ドローン】
燃料電池を用いることで、従来と比べて長時間の飛行が可能となり、物流や農業における農薬散布など、幅広い分野での活用が見込まれています。

再生可能エネルギーによる発電と水素貯蔵のイメージ



水素輸送インフラの例

水素タンカー

パイプライン

輸送インフラの整備により、効率的なエネルギー消費への寄与が期待される。

※写真・図はイメージです。

拡がりが期待される水素経済圏

【本資料の「お申込みに際しての留意事項」を必ずご覧ください。】

- 水素は、製造や貯蔵・輸送にかかる手間やコストがネックとなり、十分な活用には至っていませんでした。しかし近年では、水素がもつ様々な魅力を背景に、脱炭素社会の実現に向けた主力エネルギー源として、世界で注目を集めています。
- 水素は、社会を支える新たなインフラの一つとなり、私たちの生活の様々な場面で活用されるだけでなく、巨大な水素経済圏を生み出すと考えられます。

様々な産業・分野に拡がる水素経済圏

※写真・図はイメージです。

当ファンドが着目する水素関連カテゴリー

【本資料の「お申込みに際しての留意事項」を必ずご覧ください。】

- 水素の活用機会は多岐にわたりますが、当ファンドでは、水素ビジネスを「**つくる、運ぶ・貯める、使う**」の3つのカテゴリーで捉え、これらの分野に関わる企業に投資を行ないます。
- なお、各分野における代表的な水素関連ビジネスには、以下のようなものがあります。

当ファンドが着目する水素関連ビジネスの例

つくる（材料・メーカーなど）

再生可能エネルギー

風力や太陽光などの再生可能エネルギーは、各国が開発・普及に注力する分野であり、クリーンな水素製造にも欠かせない動力源に。

水素プラント

水素の製造機能を有するプラント。
水素の利用機会が拡がるにつれ、プラント需要の増加が見込まれる。

運ぶ・貯める（インフラ関連）

パイプライン

水素を輸送するためのパイプライン。
欧州では、大規模なインフラ投資計画が進められている。

水素ステーション

水素モビリティ普及に欠かせない重要なインフラの一つ。
政府による後押しなどもあり、今後の拡大が見込まれる分野。

使う（水素を活用した商品・サービス）

水素発電所

水素を燃料に活用する発電所。
CO_2を出さないクリーンな発電であり、脱炭素社会への大きな貢献が期待される。

水素モビリティ

水素を動力に活用する自動車・バスなど。
走行時にCO_2を排出しない点などから、大きな注目を集めている。

川上分野 ←→ **川下分野**

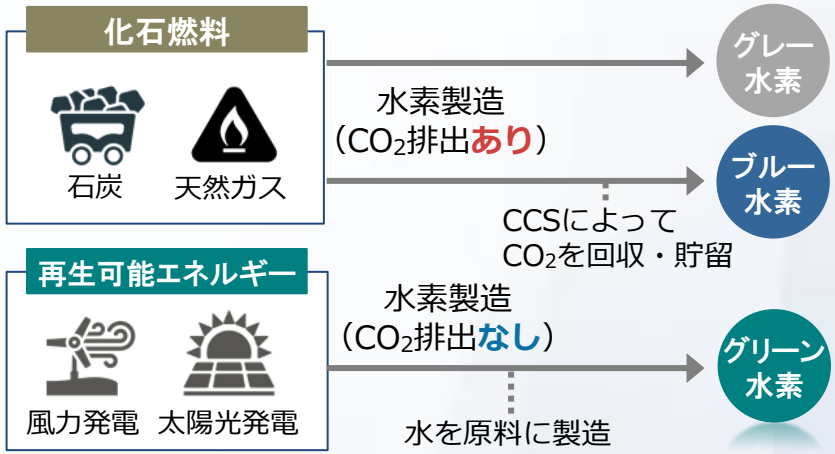
※写真・図はイメージです。

注目カテゴリー紹介① つくる（再生可能エネルギー）

【本資料の「お申込みに際しての留意事項」を必ずご覧ください。】

- 水素は、水からだけでなく、石炭などの化石燃料からも製造可能で、製造方法によって色分けして呼ばれます。中でも環境への負荷が最も小さい「グリーン水素」は世界中で関心を集めており、製造に必要な再生可能エネルギーは、今後も需要が拡大すると考えられます。
- なお、風力や太陽光などの再生可能エネルギーによる発電コストは、技術革新や規模の拡大などもあり、以前に比べて大幅に低下しており、グリーン水素の製造を後押しすると考えられます。

製造方法による水素の分類

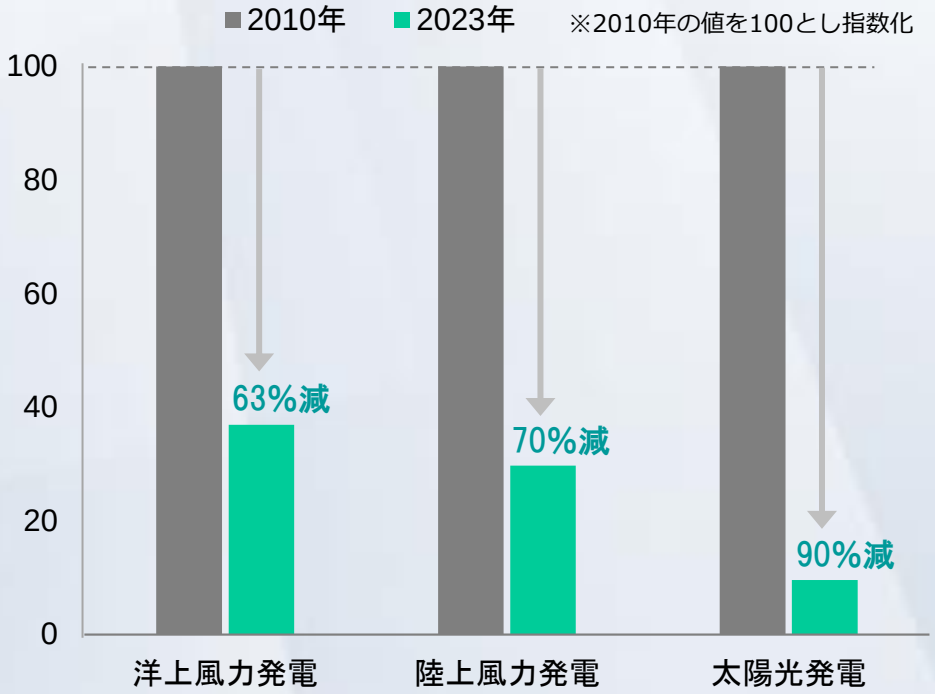


欧州で進む、大規模なグリーン水素製造プロジェクト

欧州では、オランダ北部の洋上に大規模な風力発電所を建造し、海水からグリーン水素を製造する計画が進行しています。2040年には、100万トンの水素生産（電力換算で10ギガワット）をめざしており、これは**原子力発電所10基分**に相当します。

※各種報道などをもとに日興アセットマネジメントが作成
※写真・図はイメージです。

再生可能エネルギーによる発電コストの変化



※IRENA (国際再生可能エネルギー機関)「Renewable power generation costs in 2023」のデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

注目カテゴリー紹介② 運ぶ・貯める（パイプライン）

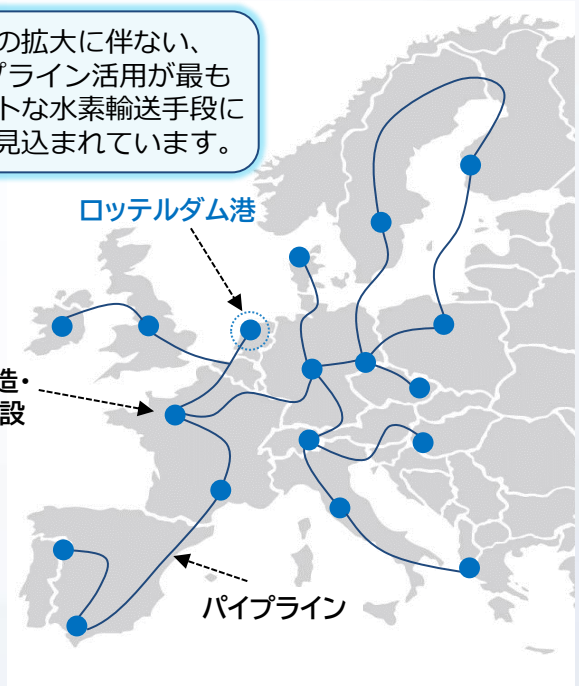
【本資料の「お申込みに際しての留意事項」を必ずご覧ください。】

- 水素の技術開発などで世界をリードする欧州では、大規模な水素パイプライン建設計画が発表されるなど、水素の活用に向けた取り組みが進められています。
- 同計画では、2020年代半ばから開発を開始し、2040年までに約53,000kmの水素パイプライン網が完成する予定です。既存の天然ガスパイプラインも活用することで、製造コストの抑制が可能とみられています。

欧州の大規模な水素パイプライン建設計画

欧州がめざす水素パイプライン網（イメージ）

規模の拡大に伴ない、パイプライン活用が最も低コストな水素輸送手段になると見込まれています。



※上図はイメージです。

水素パイプライン計画の概要

【巨額の投資見込み額】

800億～1,430億ユーロ
（**12.5兆円～22.3兆円**）

※換算為替レート：1ユーロ＝156.27円（2025年2月末現在）

【2040年時の全長は53,000km】

<ご参考>
日本列島の長さ
（約3,000km）の
約**17.7倍の規模**に

※上記は資料作成時点のものであり、将来、変更となる場合があります。

水素供給の重要拠点として注目される、ロッテルダム港

- パイプライン計画の重要な拠点として、欧州最大級の貨物取扱量を誇るオランダのロッテルダム港が注目されています。
- ロッテルダム港では水素の輸入・製造に向けた積極的なインフラ構築が進められており、フランスや英国などのエネルギー・資本財関連企業のほか、米国の大手エネルギー関連企業なども同港での水素関連プロジェクトに参画しています。
- 2030年には、**同港がEUにおける水素の輸入目標の4割程度を担う可能性があり、同港での水素関連インフラの整備が進むことで、欧州などでの水素普及が加速する**と期待されます。

※European Hydrogen Backboneなど、信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

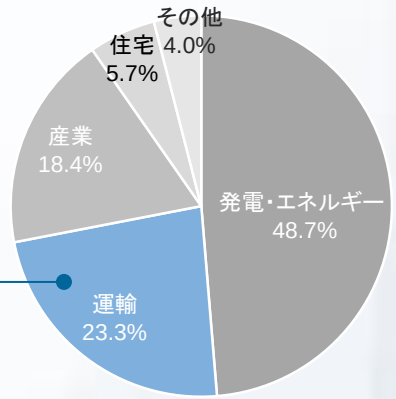
注目カテゴリー紹介③ 使う（モビリティ）

【本資料の「お申込みに際しての留意事項」を必ずご覧ください。】

- 運輸分野は、世界のCO_2排出量の約2割を占めることからCO_2削減余地が大きく、各国・地域でガソリン車の販売に対する規制が課されるなど、環境に配慮したモビリティへシフトする動きが拡がっています。
- 水素を燃料とする燃料電池車（FCV）は、走行時にCO_2を排出しないことに加え、電気自動車（EV）と比べて長距離の走行が可能など、多くのメリットを持つことから、今後の普及が期待されます。

燃料燃焼による世界のCO_2排出量の分野別割合（2022年）

運輸分野の割合は、発電・エネルギー分野に次ぐ高さ



※IEA（国際エネルギー機関）のデータをもとに日興アセットマネジメント作成

※端数処理の関係で合計が100%とならないことがあります。

環境に配慮したモビリティへのシフト

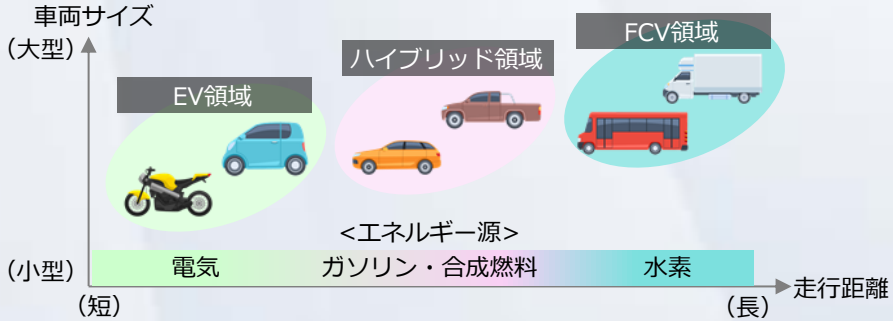
世界中で拡がる、ガソリン車（新車）の販売規制の動き

英国	2035年より販売禁止
日本	2030年代半ばに販売禁止の方針
米国	カリフォルニア州で2035年までに禁止の方針
中国	2035年をめどに、販売をEVやハイブリッド車など環境対応車のみに
EU	2035年より販売禁止（CO_2排出をゼロとみなす合成燃料を利用する場合は除く）

※各種報道などをもとに日興アセットマネジメントが作成。上記は資料作成時点のものであり、将来、変更となる場合があります。
※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

次世代自動車の特性・活用事例

FCVは、エネルギー効率が高く**長距離走行が可能で、エネルギー源の充填時間も短い**などの特徴を有していることから、**トラックやバスといった大型車を中心に普及**が見込まれています。



	FCV	EV
走行時のCO_2排出	なし	なし
航続距離	約650～750km	約300～400km
エネルギー源のフル充填に要する時間	ガソリン車と同程度（EVより短時間）→およそ3分	<家庭用充電>→およそ一晩 <急速充電>→数十分～1時間

※写真・図はイメージです。上記は資料作成時点のものであり、将来、変更となる場合があります。

世界中で水素普及に向けた戦略・ロードマップを策定

【本資料の「お申込みに際しての留意事項」を必ずご覧ください。】

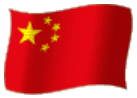
欧州

- 水素戦略ロードマップを策定。2020～2050年を3つのフェーズに分け、それぞれの時期での達成目標などを示しました。

	2020年～2024年	2025年～2030年	～2050年
定性目標	• 大型輸送等、新セクターでの水素消費拡大	• 欧州全体での水素輸送インフラや系統の整備	• 再生可能エネルギーでつくった電力の1/4を水素製造へ活用
グリーン水素生産量	• 100万トン	• 1,000万トン*	• 多くの分野での大量導入

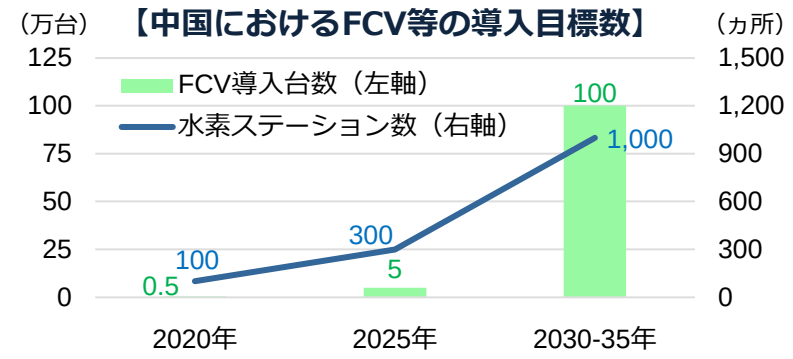
*2022年に公表されたREPowerEU（リパワーEU）構想において、2030年までに水素供給量（輸入含む）を年間2,000万トンとする目標が掲げられました。

中国



- 水素や燃料電池を重点エネルギー技術と捉え、FCVなどの導入目標を設定しました。

【中国におけるFCV等の導入目標数】



米国

- 水素研究の開発・実証計画である「Hydrogen Program Plan」を発表し、組織横断的に水素推進に取り組む方針を示しました。

「Hydrogen Program Plan」における重点項目

1. 水素の製造や輸送・貯蔵などに関わるコスト低減、効率性向上など
2. 水素の輸出に関わる、技術や規制面での障壁撤廃
3. 水素供給源の統合・集約による大規模化
4. 水素を活用したエネルギー統合システムの開発・検証
5. 革新的な水素活用方法の提案

✓ 米国の業界団体では、水素ビジネスの発展によって、2050年までに年間7,500億米ドルの経済効果と340万人の雇用が生まれると見込んでいます。

日本

- 水素基本戦略や達成へのロードマップを策定し、目標達成に必要な取り組みなどを示しました。

（導入目標）	2025年まで	2030年まで	達成に向けた取り組み
FCV	• 20万台	• 80万台	• 徹底的な規制改革と技術開発
水素ステーション	• 320ヵ所	• 900ヵ所	• コンビニやガソリンスタンド併設の水素ステーションの拡充
水素バス	—	• 1,200台	• バス対応水素ステーションの拡充

✓ その他、水素供給コストの低減や、発電効率向上などの項目も定めており、国を挙げた取り組みを推進していく方針。

※米国エネルギー省、The Fuel Cell and Hydrogen Energy Association (FCHEA)、環境省の資料などをもとに日興アセットマネジメントが作成。上記は資料作成時点のものであり、将来、変更となる場合があります。
※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

ファンドの特色

1 世界の株式の中から主に水素関連ビジネスを行なう企業の株式に投資を行ないます。

■ 日本を含む世界の株式（DR（預託証券）を含みます。）の中から、今後の成長が期待される水素関連ビジネスを行なう企業の株式を中心に投資を行ないます。

■ 外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジは行ないません。

2 日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッド*が運用を行ないます。

* 2025年9月1日、日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドは「アモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッド」に社名変更します。

■ 株式運用において実績を持つ日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドのグローバル株式運用チームが、マザーファンドの運用を行ないます。

3 年1回、決算を行ないます。

■ 毎年8月18日（休業日の場合は翌営業日）を決算日とします。

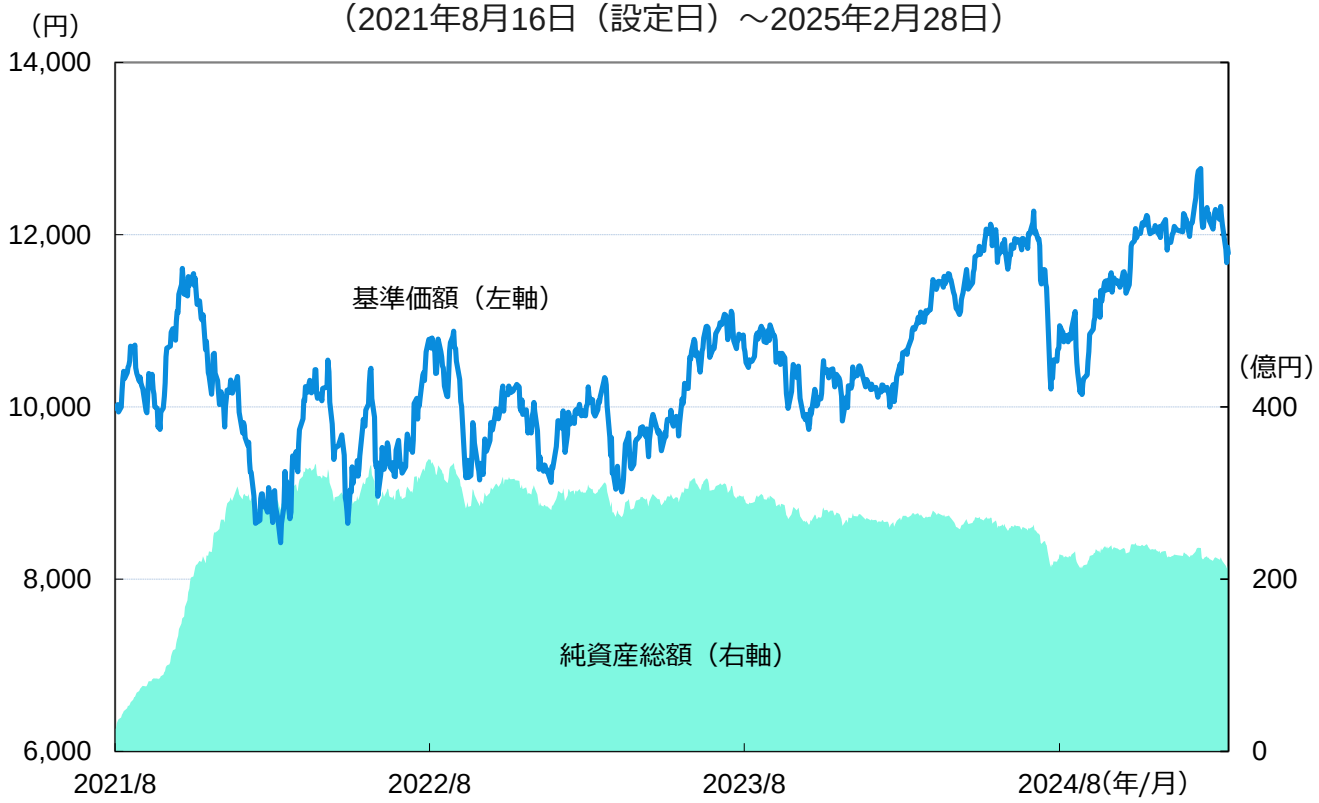
※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行なわない場合もあります。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

当ファンドの運用プロセスにおいて、ESG評価が投資対象選定の主要な要素ではないため、日興アセットマネジメントでは「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」を踏まえて、当ファンドは「ESG投信」に該当しないと判断しました。

運用実績

<基準価額と純資産総額の推移>
（2021年8月16日（設定日）～2025年2月28日）



<基準価額>
11,784円

<純資産総額>
213.94億円

（2025年2月28日時点）

※基準価額は信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の1万口当たりの値です。
※上記期間における分配金の支払いはありません。
※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドについて

- 日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドは、日興アセットマネジメント株式会社が100%出資する海外持株会社の傘下にある英国拠点です。当ファンドのマザーファンドの運用を行なうグローバル株式運用チームはエジンバラ（スコットランドの中心地）に拠点を置いています。
- 水素の技術開発などで世界をリードする欧州から、当ファンドの運用を行ないます。

【グローバル株式運用チームによる運用プロセス】

エジンバラには多くの運用会社があり、世界の上場企業がIR活動の一環として、足繁く訪れる地として知られています。

投資対象ユニバース
国・地域を限定せず、一定の時価総額（10億米ドル以上）と流動性（日々の平均売買代金が1千万米ドル以上）を持つ銘柄を投資対象ユニバースとします。

調査対象銘柄
スクリーニング・ツールの活用により水素関連ビジネスとの関係性を調査することに加え、企業訪問などを踏まえた洞察、運用チーム全体の四半期投資戦略、ESG評価を融合し、ファンドマネージャー毎に詳細な調査を行なう水素関連銘柄を絞り込みます。

評価対象銘柄
各自の定性調査に基づき、詳細な財務モデルを作成し、投資対象候補とすべき銘柄を明確化します。さらに、運用チーム内で互いの投資対象候補銘柄の相互評価や議論を行ないます。

ランキング・ツールの活用
投資対象候補銘柄について、期待アルファの大きさや、その実現についての確信度などの項目にスコアを毎月付与し、ランキング・ツールに基づき、順位付けを行ないます。

ポートフォリオ構築
組入れ・売却の判断や構成比率の調整を行ない、ポートフォリオを構築します。

モニタリング（パフォーマンス、リスク、ESG評価など）

※上記は2024年8月末現在の運用プロセスであり、将来変更となる場合があります。
※市場動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

グローバル株式運用チームによる目利きのポイント

- グローバル株式運用チームでは、事業に投じた資金に対して効率的に高い利益を生みだし、それを持続することができる企業を「フューチャー・クオリティ企業」と呼び、魅力的な投資対象と考えています。
- スクリーニング・ツールの活用により、水素ビジネスとの関連性を調査した上で作ったユニバースの中から、様々なアプローチを行ないフューチャー・クオリティ企業を選定し、下図の4つの要素（4つの柱）が相対的に高い評価の企業の中から、投資銘柄を厳選します。

フューチャー・クオリティ企業の『4つの柱』

持続的な競争優位性	健全な経営戦略と資本配分	成長を支える強固な財務基盤	市場での企業価値評価
事業 Franchise	経営 Management	財務 Balance Sheet	バリュエーション Valuation
『事業の競争優位性を維持できる企業なのか』	『健全な経営戦略や資本配分が行なえる企業なのか』	『自己資本を再投資することで成長を支えることができる財務基盤を有している企業なのか』	『企業の将来性を市場がどのように評価しているのか』を、一貫した指標を用いたアプローチ（手法）で見極め

※市場動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

ポートフォリオの概要①

（2025年2月末時点）

国・地域別比率（上位5ヵ国・地域）

国・地域名	比率
アメリカ	37.9%
フランス	12.1%
日本	9.2%
イギリス	8.6%
スウェーデン	8.2%

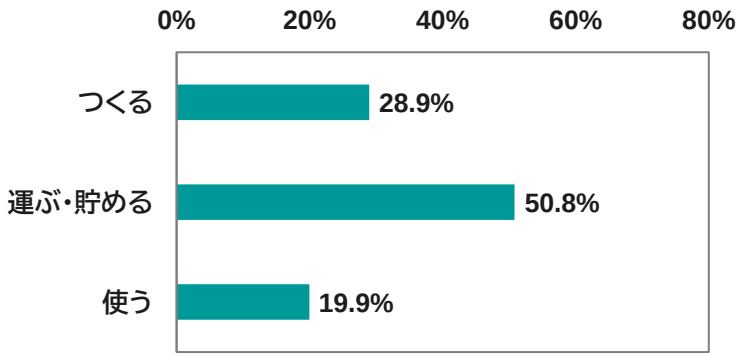
規模別構成比率

時価総額	比率
超大型株（500億米ドル以上）	40.5%
大型株（100億米ドル以上500億米ドル未満）	26.5%
中型株（20億米ドル以上100億米ドル未満）	27.9%
小型株（20億米ドル未満）	4.8%

業種別比率（上位5業種）

業種名	比率
資本財・サービス	58.1%
素材	16.1%
エネルギー	13.0%
情報技術	8.8%
金融	3.7%

投資カテゴリー別比率



※上記はマザーファンドの状況です。比率はマザーファンドの純資産総額に対する値です。
※業種はGICS（世界産業分類基準）のセクター分類を用いて分類しています。
※投資カテゴリーは日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドが考える分類です。
※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

ポートフォリオの概要②

組入上位10銘柄の概要（銘柄数：37銘柄、2025年2月末時点）

	銘柄名称	国・地域	業種	投資カテゴリー	比率
1	リンデ	イギリス	素材	つくる	4.8%
2	エア・リキード	フランス	素材	つくる	4.5%
3	テクニップ	フランス	エネルギー	運ぶ・貯める	4.1%
4	エアープロダクツ・アンド・ケミカルズ	アメリカ	素材	つくる	4.0%
5	カミンズ	アメリカ	資本財・サービス	使う	3.9%
6	スミス・グループ	イギリス	資本財・サービス	運ぶ・貯める	3.8%
7	アトラスコプコ	スウェーデン	資本財・サービス	運ぶ・貯める	3.8%
8	マッコーリー・グループ	オーストラリア	金融	運ぶ・貯める	3.7%
9	ウォーリー	オーストラリア	資本財・サービス	運ぶ・貯める	3.6%
10	ブルーム・エナジー	アメリカ	資本財・サービス	使う	3.5%

※上記はマザーファンドの状況です。比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。
※国・地域は日興アセットマネジメントが信頼できると判断したデータに基づき、主として、各銘柄の本社所在地を表示しています。
※業種名はGICS（世界産業分類基準）のセクター分類に基づきます。
※投資カテゴリーは日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドが考える分類です。
※個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。また、将来の組入れを保証するものでもありません。
※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

各投資カテゴリーの代表銘柄のご紹介①

※業種名はGICS（世界産業分類基準）のセクター分類に基づきます。また、投資カテゴリーは日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドが考える分類です。

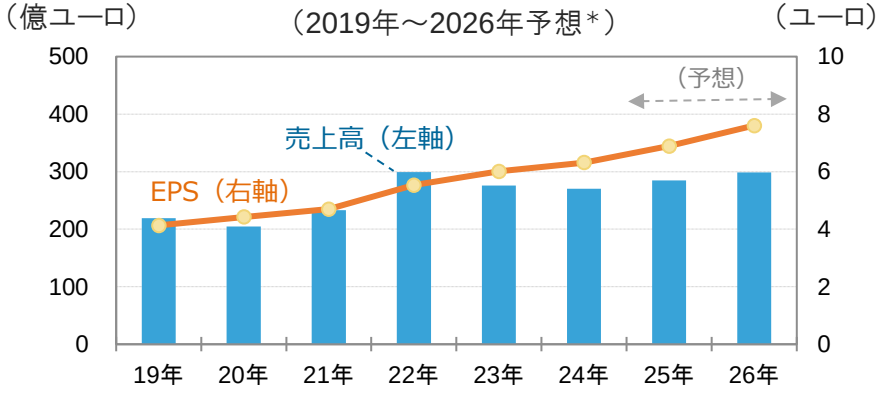
エア・リキード （業種：素材）

【投資カテゴリー】
つくる

- 世界最大級の工業用ガスメーカー。工業・ヘルスケアなどの分野を対象に、窒素や酸素などのガスを生産・販売するほか、医療機器などの製造も行なっています。欧州や米国、アジアなど世界中で事業展開しており、水素事業においても、製造・貯蔵・配送といった幅広い分野での高い専門性を有しています。
- 水素の製造に関わるビジネスは、大規模な設備投資が必要なことなどから参入障壁が高いと言われており、寡占状態にあります。同ビジネスでの長い経験を有する同社は、水素価格への大きな影響力を有しており、中長期での安定的な利益成長が見込まれます。

【株価の推移】
（2019年1月初～2025年2月末）

【売上高・EPS（一株当たり純利益）の推移】
（2019年～2026年予想*）



信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

*2025年以降は、2025年3月時点の市場予想

※上記は、情報提供を目的として、各投資カテゴリーの代表銘柄について、日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドからのコメントなどをもとに日興アセットマネジメントがまとめたものです。※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

各投資カテゴリーの代表銘柄のご紹介②

※業種名はGICS（世界産業分類基準）のセクター分類に基づきます。また、投資カテゴリーは日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドが考える分類です。

テクニップ（業種：エネルギー）

【投資カテゴリー】
運ぶ・貯める

- フランスのエンジニアリングサービス大手「テクニップFMC」の分社化によって誕生した、LNG（液化天然ガス）分野の先駆者的な存在です。LNG事業を中核に据えつつも、水素関連事業を今後の注力分野としており、事業の軸足を移しつつあります。
- 炭素回収やガス生成における高い技術力を誇っており、大規模な水素プラントを建設するなど、水素関連プロジェクトにおける豊富な経験を有しています。LNG事業などで創出する潤沢なキャッシュフローや、水素の製造や液化技術における専門性・先進性などを背景に、今後、大きな成長を遂げると考えられます。

【株価の推移】

【売上高・EPS（一株当たり純利益）の推移】

信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

＊2025年以降は、2025年3月時点の市場予想

※上記は、情報提供を目的として、各投資カテゴリーの代表銘柄について、日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドからのコメントなどをもとに日興アセットマネジメントがまとめたものです。※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

各投資カテゴリーの代表銘柄のご紹介③

※業種名はGICS（世界産業分類基準）のセクター分類に基づきます。また、投資カテゴリーは日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドが考える分類です。

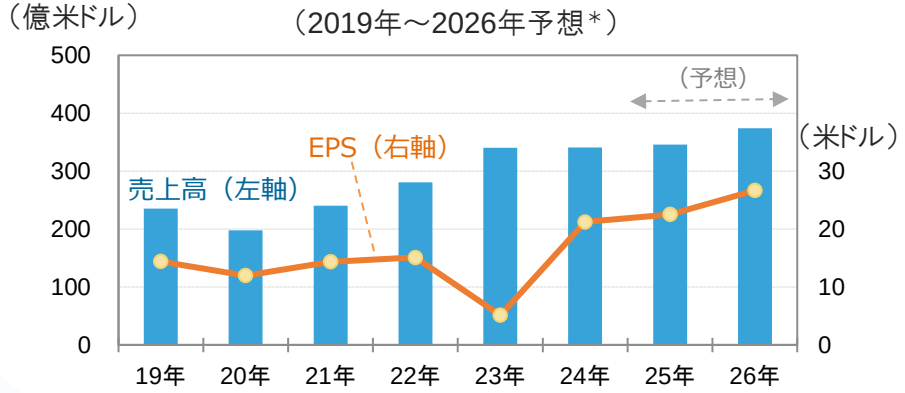
カミンズ（業種：資本財・サービス）

【投資カテゴリー】
使う

- 様々な種類のエンジンおよび関連部品の設計・製造・販売などを手掛ける、世界的なエンジンメーカーです。ディーゼルエンジンなど既存の主力ビジネスにおける高い収益性を活かし、水素を含む新エネルギー分野の研究・開発に多額の投資を行なうなど、事業の多角化を進めています。
- 水素はクリーンかつハイパワーな燃料としての特徴を有しており、今後、トラックなど大型車両の分野で水素を活用したエンジンの普及が見込まれています。こうした水素を活用したエンジンの分野において、同社は大きな市場シェアの獲得が期待されます。

【株価の推移】
（2019年1月初～2025年2月末）

【売上高・EPS（一株当たり純利益）の推移】
（2019年～2026年予想*）



信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

*2025年以降は、2025年3月時点の市場予想

※上記は、情報提供を目的として、各投資カテゴリーの代表銘柄について、日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドからのコメントなどをもとに日興アセットマネジメントがまとめたものです。※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

お申込みに際しての留意事項①

■ リスク情報

投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

・株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

・新興国の株式は先進国の株式に比べて、また中小型株式は株式市場全体の平均に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。

流動性リスク

・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

・新興国の株式は先進国の株式に比べて、また中小型株式は株式市場全体の平均に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

信用リスク

・投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

為替変動リスク

・外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

・一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

（次ページに続きます）

お申込みに際しての留意事項②

（前ページより続きます）

カントリー・リスク

・投資対象国における非常事態など（金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など）を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。

・一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

・上海や深センのストックコネクト（株式相互取引制度）を通じた中国A株への投資においては、取引可能な銘柄が限定されていることに加えて、投資枠や取引可能日の制約、長期にわたって売買停止措置がとられる可能性などにより、意図した通りの取引ができない場合があります。また、ストックコネクト特有の条件や制限は、今後、中国当局の裁量などにより変更となる可能性があります。さらに、ストックコネクトにおける取引通貨はオフショア人民元となり、QFII制度の取引通貨である中国本土のオンショア人民元の為替レートの値動きとは乖離する場合があります。こうした要因から、ファンドの基準価額に影響を与える可能性があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■ その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様に「グローバル水素株式ファンド／愛称：H2」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
  分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	1万円以上1円単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	無期限（2021年8月16日設定）
決算日	毎年8月18日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・英国証券取引所の休業日 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ロンドンの銀行休業日 ・ニューヨークの銀行休業日
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度（NISA）の適用対象となります。 ※当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

＜申込時、換金時にご負担いただく費用＞

購入時手数料	三井住友信託銀行における購入時手数料率は、お申込金額に応じて、以下のように変わります。 1,000万円未満・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3.30%（税抜3.0%） 1,000万円以上1億円未満・・・・・・・・・2.75%（税抜2.5%） 1億円以上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2.20%（税抜2.0%） ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

＜信託財産で間接的にご負担いただく（ファンドから支払われる）費用＞

運用管理費用 （信託報酬）	ファンドの日々の純資産総額に対し年率1.6885%（税抜1.535%）
その他の費用・ 手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用（業務委託する場合の委託費用を含みます。）、監査費用、運用において利用する指数の標章使用料などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などが、その都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。また、有価証券の貸付は現在行なっておりませんので、それに関連する報酬はかかりません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 〔ホームページ〕www.nikkoam.com/ 〔コールセンター〕0120-25-1404（午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。）
投資顧問会社	日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッド
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	三井住友信託銀行株式会社　　他

nikko am

Nikko Asset Management